別紙

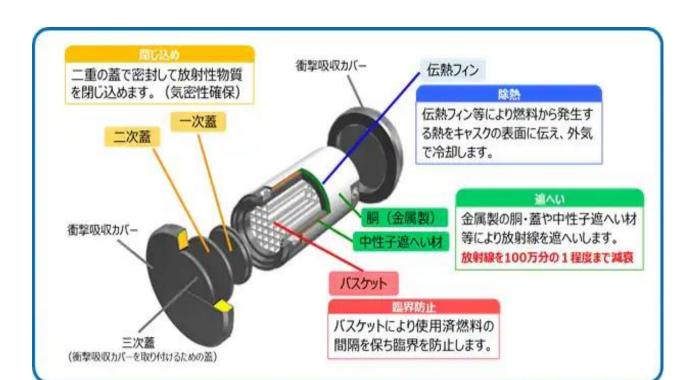
使用済燃料対策ロードマップ

2025年2月13日 関西郷力株式会社

- ・六ヶ所再処理工場の2026年度中の竣工に向け、関西電力を中心に、審査・検査に対応する人材を更に確保
- ・2027年度から萬処理開始、2028年度から使用済燃料受入れ開始。 再処理工場への関西電力の使用済燃料の撤出において、 2030年度までの3年間で1981を撤出(全体再処理量の約6割)。その後も必要量を確保し搬出するよう取り組む
- ・使用済MOX燃料の再処理実証研究のため、2027年度から2029年度にかけて高浜発電所の使用済燃料約200 t を仏国オラノ社に搬出、 データ充実化が必要になったことを踏まえ、さらに200 t 関西電力から搬出容量枠を確保し、まず2030年度から100 t を撤出する
- ・中間貯蔵施設の他域点を確保し、2030年頃に操業開始
- ・中間貯蔵施設の操業を開始する2030年頃までの間、六ヶ所再処理工場および仏国オラノ社への搬出により、使用済燃料の貯蔵量の増加を抑制
- ・あらゆる可能性を組み合わせて必要な搬出容置を確保し、着実に発電所が継続して運転できるよう、環境を整備する
- ・本ロードマップの実効性を担保するため、今後、原則として貯蔵容量を増加させない。
- ・使用済燃料の中間貯蔵施設へのより円滑な搬出、さらに搬出までの間、電源を使用せずに安全性の高い方式で保管できるよう、 発電所からの将来の搬出に備えて発電所構内に乾式貯蔵施設の設置を検討

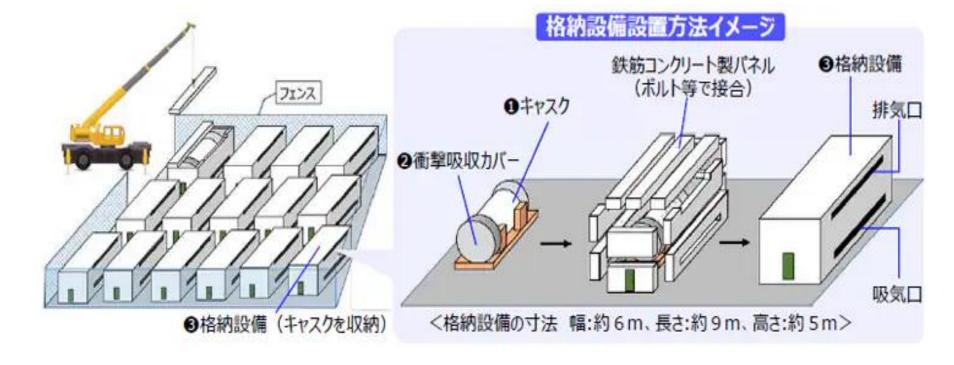
年度	2025	2025 2026		2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2035	
六ヶ所再処理工場			各電力会社の使用済燃料の再処理										
	1	竣工		上類 下胸 60t 110t	上期 下版 Ot 90t	(徐々に8	00tに増加)	800t	800t	800t	800E	\geq	
	1			各電力会社の使用済燃料受入れ									
	1			130t	110t	90t*	(徐々に80	00tに増加)	800 t	800L	800t	\rangle	
				関西電力か 78t	らの使用済 66t		その後も必要	量を搬出)					
使用済MOX燃料 再処理実証研究		高浜発電所から仏国撤出(オラノ社への撤出 200t+100t)											
			70 t	70t	60t	100t							
中間貯蔵施設	中間貯蔵施設 择業												
												\rangle	

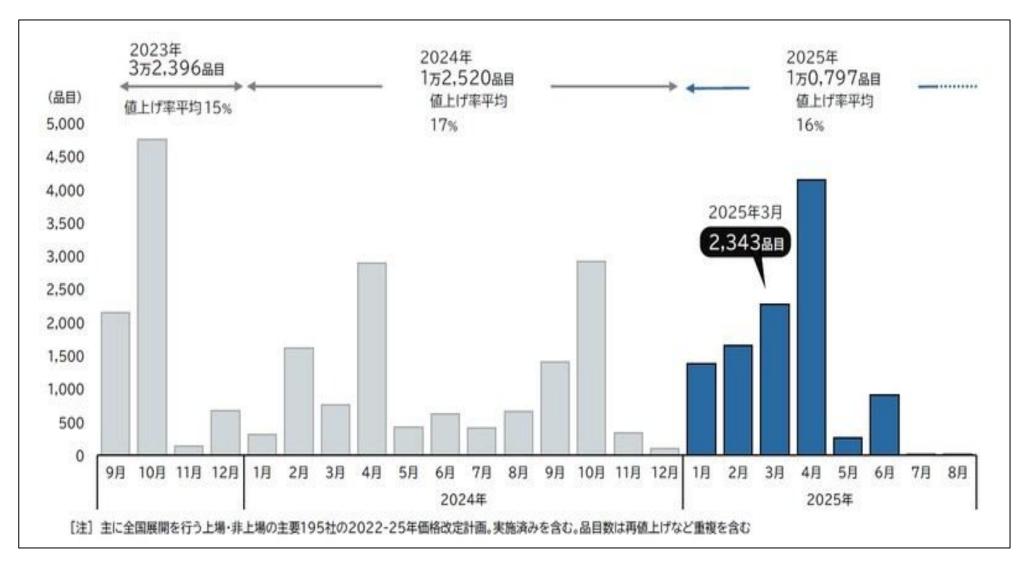
※ 受入れ塁は前年度下期と当年産上期の再処理者の合計権であるが、2030年度上路の再処理量が公安されていないため、2020年港下級の再処理量の倍を記載



資料 2

乾式貯蔵施設のイメージ図(関西電力の資料より)





<u>求められる!</u>

「物価高騰に対する市独自の緊急施策」

- 1 低所得者及び子育て世帯に、米価高騰支援として 1万円を支給もしくは同額の「お米券」を配布
- 2 生活保護世帯への夏季加算を実施
- ③ 市内の介護・障害福祉サービス事業所、また市内医療機関等にさらに物価高騰対策のための助成支援
- 4 肥料・飼料・種子等が高騰している農家に直接支援、 ガソリン・資材価格が高騰している漁業者に直接支援
- 5 来年1月、3学期実施予定の小学校給食の無償化を 本年2学期9月に前倒し、修学旅行費の無償化を検討

イージス・システム搭載艦の能力

SPY-7レーダー

・SPY-1の5倍の追尾能力により ロフテッド軌道や同時複数の弾道ミサイルに対処

CEC

・他艦艇が追尾した対空目標をリモートで 射撃・誘導が可能となる 共同交戦能力(CEC)を付与

高出力レーザー等

。下口一少による節和攻撃に対処 (2032年以降に登場)

12式SSM能力向上型(艦発型)

対水上戦において、相手の脅威圏外から相手艦艇に対処(2032年以降に搭載)

トマホーク

・島しょ防衛などにおいて、相手の脅威圏外から 地上部隊に対処 (2032年以降に搭載)

SM-3ブロックIIA

・高い迎撃能力を誇る弾道ミサイル 迎撃用誘導弾を搭載

VLS

- ・各種能力強化に伴い128セル(まや型96セル)に増強
- ·HGV対処(滑空段階)のための将来装備品への拡張性を付与

SM-6

・巡航ミサイル等に加え極超音速滑空兵器 (HGV)に対し、ターミナル段階で対処

その他

最新鋭のイージス艦と同等以上の能力を保有 底线思维

